

薬物依存者の支援学ぶ

比の団体が来県、研修

富士吉田

薬物依存症者の回復を支援している日本とフィリピンの団体のメンバーが16日、富士吉田市内で研修会を開いた。両団体は薬物使用経験者が自分の経験を語り、依存からの脱却をサポートする自助組織で、フィリピンの団体が日本側の取り組みを学ぶため、来日した。

NPO法人APARRI（アパリー、近藤恒夫理事長）が本年度から3年間、独立行政法人国際協力機構（JICA）と協力して取り組む、フィリピン国内の依存者回復支援事業の一環。同国で依存者のリハビリに携わるリニエル・クリストバルさん（47）ら4人が参加している。



この日は、同法人が活動を支援する山梨タルクの富士サ

薬物依存症者の支援方法などについて意見を交わす参加者
＝富士吉田市新倉

ポルトセンターで、クリストバルさんと近藤理事長ら6人が意見交換。依存者自身の意志で回復プログラムに取り組むため、動機付けの重要性について話し合った。

一行は今月4日に来日。都内や群馬県内などで研修し、15日に最終研修地の県内に入った。17日夜に帰国する。

自身も8年間の薬物使用歴があるクリストバルさんは「日本で学んだことを母国で生かし、多くの人に回復するきっかけを与えたい」と話している。

ボランティア活動

ボランティア活動

ボランティア活動

山梨芙蓉の会 会合

視察研修

開催